

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	平成27年5月7日
【四半期会計期間】	第53期第3四半期（自平成27年1月1日至平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社アクシーズ
【英訳名】	AXYZ Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐々倉 豊
【本店の所在の場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 伊地知 高正
【最寄りの連絡場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 伊地知 高正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第3四半期連結 累計期間	第53期 第3四半期連結 累計期間	第52期
会計期間	自平成25年 7月1日 至平成26年 3月31日	自平成26年 7月1日 至平成27年 3月31日	自平成25年 7月1日 至平成26年 6月30日
売上高 (千円)	11,737,410	12,990,670	15,827,902
経常利益 (千円)	448,038	1,278,043	730,246
四半期(当期)純利益 (千円)	319,399	752,997	485,693
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	308,499	776,639	482,179
純資産額 (千円)	6,520,314	7,400,407	6,693,995
総資産額 (千円)	8,451,676	9,823,226	8,696,474
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	56.87	134.08	86.48
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.1	75.3	77.0

回次	第52期 第3四半期連結 会計期間	第53期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成26年 1月1日 至平成26年 3月31日	自平成27年 1月1日 至平成27年 3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.80	50.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当社の連結子会社である有限会社南九州畜産及び有限会社城山サービスは、平成26年9月10日付で株式会社南九州畜産及び株式会社城山サービスへ商号変更し、株式会社に移行しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和策等により輸出企業を中心に収益の改善が進んでいるものの、消費税引き上げに伴う個人消費の低迷や急速な為替相場の円安進行による物価上昇の影響等により、依然として不透明な状況が続いております。

鶏肉業界におきましては、消費者の国産鶏肉に対するニーズの高まりや他畜種に比べ価格優位性があることから、鶏肉相場は前年に比べ堅調に推移しております。しかしながら、主要コストである飼料用穀物価格、電力料金及び運賃等の単価は引き続き為替相場の円安等の影響もあり高止まりしております。

このような状況の中、当社グループの業績は、売上高129億90百万円（前年同四半期比10.7%増）となりました。利益面につきましては、営業利益12億21百万円（同219.8%増）、経常利益12億78百万円（同185.3%増）となり、四半期純利益は7億52百万円（同135.8%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 鶏肉関連

鶏肉関連事業におきましては、肥育部門で新設した最新鋭の大型肥育施設が稼働し、当四半期より出荷が本格化したことに加え、当社グループ独自の肥育管理システムの改良・更新により肥育効率が大幅に改善いたしました。また、各鶏肉加工工場における製品歩留りも一段と向上し、主要取引先向けの出荷数量を大幅に増加させることができ、売上高、利益面とも前年実績を上回る結果となりました。今後とも肥育部門、鶏肉加工部門及び飼料製造部門において、生産能力増強とコスト削減を同時に進めるため、設備投資を継続実施していく予定です。

以上の結果、売上高は109億44百万円（前年同四半期比12.5%増）、セグメント利益は10億33百万円（同370.4%増）となりました。

#### 外食

外食事業におきましては、KFC店舗において期間限定商品が好評であったことに加え、使用する鶏肉全量を国産鶏肉に切り替えたことの周知が進み、販売は堅調に推移しました。

その結果、売上高は20億45百万円（前年同四半期比1.7%増）、セグメント利益は1億85百万円（同16.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末に比べ以下のとおりとなりました。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ11億26百万円増加し、98億23百万円となりました。これは主に、現金及び預金が7億4百万円、工具、器具及び備品が5億80百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ4億20百万円増加し、24億22百万円となりました。これは主に、未払法人税等が2億25百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ7億6百万円増加し、74億円となりました。これは、利益剰余金が6億82百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は、86百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,350,000
計	19,350,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年5月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,617,500	5,617,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 (100株)
計	5,617,500	5,617,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年1月1日～ 平成27年3月31日	-	5,617,500	-	452,370	-	428,340

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,615,500	56,155	-
単元未満株式	普通株式 600	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,617,500	-	-
総株主の議決権	-	56,155	-

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アクシーズ	鹿児島市草牟田二丁目1番8号	1,400	-	1,400	0.02
計	-	1,400	-	1,400	0.02

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	564,812	1,269,572
受取手形及び売掛金	1,315,864	1,398,260
製品	226,489	329,994
仕掛品	223,753	294,046
原材料及び貯蔵品	991,777	769,082
その他	207,743	247,376
貸倒引当金	325	393
流動資産合計	3,530,116	4,307,938
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	421,996	467,801
工具、器具及び備品(純額)	782,837	1,362,871
土地	2,768,273	2,769,163
その他(純額)	399,392	197,254
有形固定資産合計	4,372,499	4,797,090
無形固定資産	11,256	17,033
投資その他の資産		
投資その他の資産	784,806	702,599
貸倒引当金	2,204	1,434
投資その他の資産合計	782,602	701,165
固定資産合計	5,166,358	5,515,288
資産合計	8,696,474	9,823,226
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	256,854	319,950
1年内償還予定の社債	40,800	-
短期借入金	-	5,000
未払金	1,060,078	1,087,074
未払法人税等	217,067	442,498
賞与引当金	-	79,800
その他	78,726	111,379
流動負債合計	1,653,527	2,045,703
固定負債		
社債	-	35,500
役員退職慰労引当金	111,341	117,889
退職給付に係る負債	185,333	170,761
その他	52,276	52,964
固定負債合計	348,951	377,115
負債合計	2,002,479	2,422,819

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	452,370	452,370
資本剰余金	428,340	428,340
利益剰余金	5,747,448	6,430,245
自己株式	1,087	1,113
株主資本合計	6,627,071	7,309,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	66,923	90,565
その他の包括利益累計額合計	66,923	90,565
純資産合計	6,693,995	7,400,407
負債純資産合計	8,696,474	9,823,226

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	11,737,410	12,990,670
売上原価	8,498,395	8,730,996
売上総利益	3,239,015	4,259,673
販売費及び一般管理費	2,857,201	3,038,572
営業利益	381,813	1,221,100
営業外収益		
受取利息	3,094	2,834
受取配当金	2,383	2,561
持分法による投資利益	3,931	2,788
為替差益	14,750	15,326
受取家賃	20,627	21,526
その他	23,111	15,298
営業外収益合計	67,899	60,334
営業外費用		
支払利息	1,426	798
その他	247	2,593
営業外費用合計	1,674	3,391
経常利益	448,038	1,278,043
特別利益		
固定資産売却益	2,976	-
投資有価証券売却益	27,294	-
補助金収入	19,233	51,333
特別利益合計	49,504	51,333
特別損失		
固定資産除却損	3,539	-
固定資産圧縮損	19,233	51,333
特別損失合計	22,772	51,333
税金等調整前四半期純利益	474,770	1,278,043
法人税、住民税及び事業税	195,660	558,156
法人税等調整額	40,290	33,110
法人税等合計	155,370	525,045
少数株主損益調整前四半期純利益	319,399	752,997
四半期純利益	319,399	752,997

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	319,399	752,997
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,900	23,641
その他の包括利益合計	10,900	23,641
四半期包括利益	308,499	776,639
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	308,499	776,639

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間から適用しておりますが、簡便法を適用しているため、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の見直しによる変更はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益及び利益剰余金に与える影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)
減価償却費	249,373千円	347,450千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月20日 定時株主総会	普通株式	70,200	12.50	平成25年6月30日	平成25年9月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月19日 定時株主総会	普通株式	70,200	12.50	平成26年6月30日	平成26年9月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鶏肉関連	外食	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,725,043	2,012,367	11,737,410	-	11,737,410
セグメント間の内部売上高又は振替高	232	-	232	232	-
計	9,725,275	2,012,367	11,737,642	232	11,737,410
セグメント利益	219,627	159,865	379,492	2,321	381,813

(注)1. セグメント利益の調整額2,321千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	鶏肉関連	外食	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,944,844	2,045,825	12,990,670	-	12,990,670
セグメント間の内部売上高又は振替高	157	-	157	157	-
計	10,945,001	2,045,825	12,990,827	157	12,990,670
セグメント利益	1,033,032	185,745	1,218,778	2,322	1,221,100

(注)1. セグメント利益の調整額2,322千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	56円87銭	134円08銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	319,399	752,997
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	319,399	752,997
普通株式の期中平均株式数(株)	5,616,060	5,616,052

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 5月 1日

株式会社アクシーズ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川畑 秀二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アクシーズの平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年1月1日から平成27年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成27年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アクシーズ及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。